(財)九州環境管理協会研修の感想

中国輻射防護研究院環境科学研究所
工程師　焦　志蘭

はじめに

私は1998年7月15日に相互の研究員派遣協定により，同僚の張さんと半年間の予定で来日しました。私はこの短い期間にいろいろなことを学びました。そのことについて3か月の感想を以下にいくつかの項目に分けて書きたいと思います。

その前に，私は来日前に次の目標を心に秘めていました。その1は，日本の分析技術を見聞し，学ぶことがあればより多く学び，帰国してから生かせることをどんどん取り入れたいということ。その2は，日本語を現在以上に上達させたいこと。その3は，学問すべてに言えることですが，環境科学には国境がなく，その日から共通の認識に立てるので，多くの友達を作りたいということ。その4は，私は自身の目で日本と日本人を見ておきたいこと。

短い期間に多くの目標を欲張ってどれだけ収穫があるか，帰国してからゆっくりと考えることにします。

九州環境管理協会について

この協会は官庁の下部機関でもなく，利潤追求の民間企業でもなく，1971年に九州で一番の九州大学の先生たちが，当時，日本で有名な水俣問題を始めとして，多くの環境公害問題に対処するための研究機関として設立されたと聞きました。

当時の日本は世界一流の工業国をめざして，鉄鋼，自動車，電器製品などを盛んに作り，国民所得を倍増させると国を挙げて努力していたということでした。ところが，あまりにも急いだため，自然環境，農村，山林の破壊など有害物質の氾濫で国民の健康被害に気がつき，国の大きな社会問題となってきました。この協会はその頃発足されました。このような機関は当時，日本でも1つか2つしかなかったようです。主に水質分析をしていました。

現在，この協会では110人ぐらいが各専門に分かれて九州各地の官庁や民間企業から有料で仕事をしているようです。一番多いのは化学分析で，昨年，話題のダイオキシン分析も始めました。環境放射能や生物調査や環境アセスメントなども忙しい様子でした。興味あるのは農村や各地方にある市町村の将来への地域構想に環境面からの要因を加えて計画をつくる仕事が増えていると聞きました。もちろん，その筋の専門家を協会の職員に配置しています。分析機器は日本でも最新の機器で，わが国の機器は少し古いと思いました。また，試薬の品質が極めて純度が高く，優秀な試薬でした。一言でいうと協会の人達は皆さん親切で優しいということです。そして，管理する立場の人達は厳しいですし，その指示を受けた職員の人達は本当に誠実でよく働きます。

日本語について

私は今回の来日研修で，以前に日本語を研修しておいてよかったと思っています。仕事の上で便利なので交流もしやすくて収穫も多くなります。外国語をマスターするには毎日その言葉に接して自分からもどんどん使って行くことが一番早道だと思っています。夜も日本語を勉強したり，NHKのTVなどを見たり，いろいろな資料を調べたりして，少しでも日本語に慣れるようにしています。なんと言っても一番難しいのは助詞の使い方です。思うのに，これは多くの会話をして実際に慣れて経験することが早道だということです。

日本と日本人

TVや新聞を見ていると，日本にも悪い人の話が多く出てきますが，これはどこの国でも同じで，私は本当に短い期間の来日でしたが，大部分の日本人は親切で法律を良く守る人達だと思います。

私はこんな経験をしました。最初の休みの日に香椎の町を少し見学しようと思い，外に出ました。あちらこちらを歩き廻りましたが，中国の道と違い，この国の道は曲がりくねっているので，とうとう道に迷ってしまいました。周囲は暗くなるし，だんだん心細くなってきました。ちょうど通りかかった42才の女性（途中で年齢を聞いた）に思い切って話し掛けました。「私は中国から来ました。道に迷って家がわかりません。教えてください。」その女性は私に同情したような表情で，「私について来なさい。」と言って，宿舎まで案内してくれました。もう外は暗くて夜の9時ごろになっていました。今でも彼女の名前も知りませんが，心からずっと感謝しています。

当協会で研修中の筆者（右）

協会の顧問でおられる小林先生（1996年訪中）が言っていました。「日本人の精神文化の根底には中国の文化が基礎になっています。精神的には儒教や仏教の心が残っています。」

日本も中国も共通するところが多く，近い国なので，これからも友達を多く作って，地球の環境を守るために永い交流関係を保ちたいと思っています。